

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学統計・解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（8月23日-29日）の新規陽性者数は、4,328人（先々週 4,524人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における週あたりの実効再生産数(R)は 0.90 (95%CrI:0.87, 0.93)であり、7週間ぶりに1を下回りました（図1）。

また、那覇市の実効再生産数(R)は 0.94 (95%CrI:0.88, 1.00)、宮古医療圏は 0.88 (95%CrI:0.75, 1.02)、八重山医療圏は 1.48 (95%CrI:1.25, 1.71)でした。

検査へのアクセスの低下や報告の遅れが生じている可能性はありますが、流行のピークを越えつつあると考えられます。ただし、全国的には減少に転じている地域が多いなかで、もっとも高いレベルで流行しながら、下げ止まっている状態にあります（図2）。

年代別推移

年代別では、20代が887人（21%）と最多であり、30代 708人（16%）が続きます。性比で男性に多いことも含めて、これまでと傾向は変わりません。70代以上の高齢者が占める割合は5%と低く、一方で未成年が27%を占めています（図3）。

週あたりの推移をみると、7月以降、高齢者の占める割合は低く保たれており、未成年が占める割合が上昇しています。これは、高齢者へのワクチン接種が進み、デルタ株への置き換わりが進んだ時期に一致しています（図4）。

幼年・若年層

園児、生徒、学生の感染者割合が、全体の新規陽

性者数のうち18%（先々週18%）を占めています。内訳は、保育園・幼稚園児 107人（先々週 94人）、小学生 316人（先々週 309人）、中学生 136人（先々週 180人）、高校生 109人（先々週 102人）、大学生 52人（先々週 34人）、専門学校生 27人（先々週 45人）でした。

保健所による疫学調査によると、小学生の新規陽性者の推定感染経路は、家庭 190人（60%）、親族 15人（5%）、学童クラブ 12人（4%）、その他 1人、不明・調査中 98人（31%）でした。同様に、中学生では、家庭 77人（57%）、親族 6人（4%）、学習塾 4人（3%）、その他 3人（2%）、不明・調査中 46人（34%）でした。

保健所管轄区域別推移

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部 297人（先々週 198人）、中部 1,567人（先々週 1,731人）、那覇市 1,027人（先々週 1,148人）、南部 1,007人（先々週 1,062人）、宮古 177人（先々週 214人）、八重山 192人（先々週 111人）でした（図5）。とくに北部で増加が続いている他、小規模離島における集団感染の影響もあって八重山で増加に転じています。

また、新規陽性者のうち、診断時に無症候だった者が占める割合は、北部 12%（先々週 20%）、中部 6%（先々週 8%）、那覇市 15%（先々週 20%）、南部 11%（先々週 10%）、宮古 19%（先々週 16%）、八重山 12%（先々週 7%）でした。この指標は、接触者をどれだけ検査に繋がられているかを反映すると考えられます。

市町村別推移

市町村別（人口 10 万人あたり 7 日間合計）では、人口 1 万人以上の市町村について多い順に嘉手納町 416（先々週 401）、名護市 364（先々週 225）、宮古島市 355（先々週 429）、うるま市 350（先々週 339）、北谷町 330（先々週 282）でした（図 6）。

前週比が高かったのは、人口 1 万以上の市町村について多い順に名護市 1.62（実数 228 人）、本部町 1.40（実数 21 人）、石垣市 1.35（実数 140 人）、西原町 1.25（実数 89 人）、与那原町 1.18（実数 45 人）でした。急速に増加している、北部の名護市と本部町は、未成年の割合が、それぞれ 30%、57%と高いことが特徴です。

渡航者関連

疫学調査で、渡航歴を認めた者は 54 人（1.3%）

（先々週 55 人）でした。内訳は、県外からの渡航者 50 人（先々週 48 人）、県外へ渡航した県民 4 人（先々週 7 人）でした。県外から沖縄県への渡航目的は、出張 14 人（28%）、帰省 7 人（4%）、観光 2 人（4%）、不明 27 人（54%）でした。

入院患者数推移

入院患者数は、先週末（8 月 29 日時点）で 722 人（8 月 22 日時点 735 人）となり、頭打ちとなっています。これは病床が確保できなくなっているためであり、入院すべき患者が自宅や施設での療養を余儀なくされはじめています。

酸素投与など中等症患者は 601 人（8 月 22 日時点 596 人）、気管挿管など重症患者も 35 人（8 月 22 日時点 21 人）に至り、中等症・重症患者が入院患者に占める割合は 83.2%（先々週 81.1%）と高くなっています（図 7）。

【今後の見通し】

県内の流行

沖縄県では、流行のピークは越えつつありますが、極めて高いレベルでの流行が続いており、すでに医療崩壊が生じています。入院による治療や見守りが望ましい感染者が、自宅や施設での療養を余儀なくされるようになっています。新たな感染者を減らしていったとしても、すぐには入院を要する患者数は減少しないため、当面は、この危機的状況が続くものと考えられます。

今週の新規陽性者数は 3,500-4,000 人と推定しますが、来週以降は二学期が始まるため、学校内での感染によって加速する可能性もあります。沖縄県は、全国でもっとも小児人口の割合が高いことから、学校再開の影響を社会全体が強く受ける

可能性があります（図 8）。このため、部活、体育、給食、そして休み時間など、学校における感染予防策を確認しておくことが必要です。

入院患者数

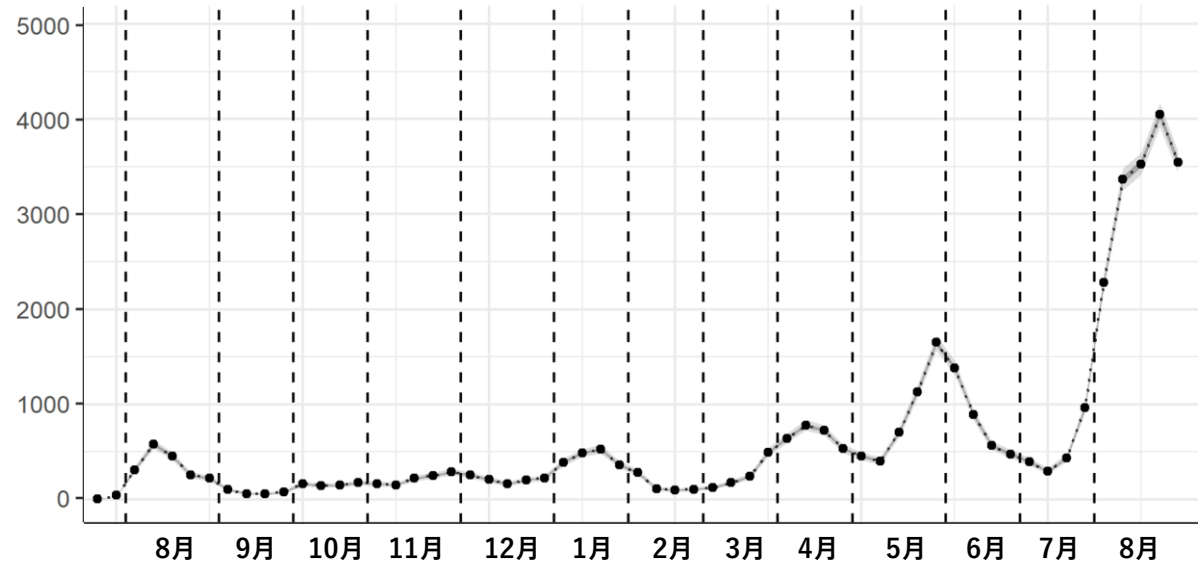
本来、入院すべきであろう患者数については、今週末までに 900-1,000 人と増加が見込まれます。ただし、病床確保が限界を迎えているため、実際に入院できるのは 750 人前後と予測され、150-250 人程度が自宅や施設での療養を余儀なくされる可能性があります。気管挿管等を必要とする重症患者数も増加傾向が続くと予想され、今週末には 40-50 人に至ると推定します（図 9）。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）

陽性者数（確定日）

週あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
（宮古・八重山を除く）



実効再生産数

週あたり推定値

北部、中部、南部医療圏
（宮古・八重山を除く）

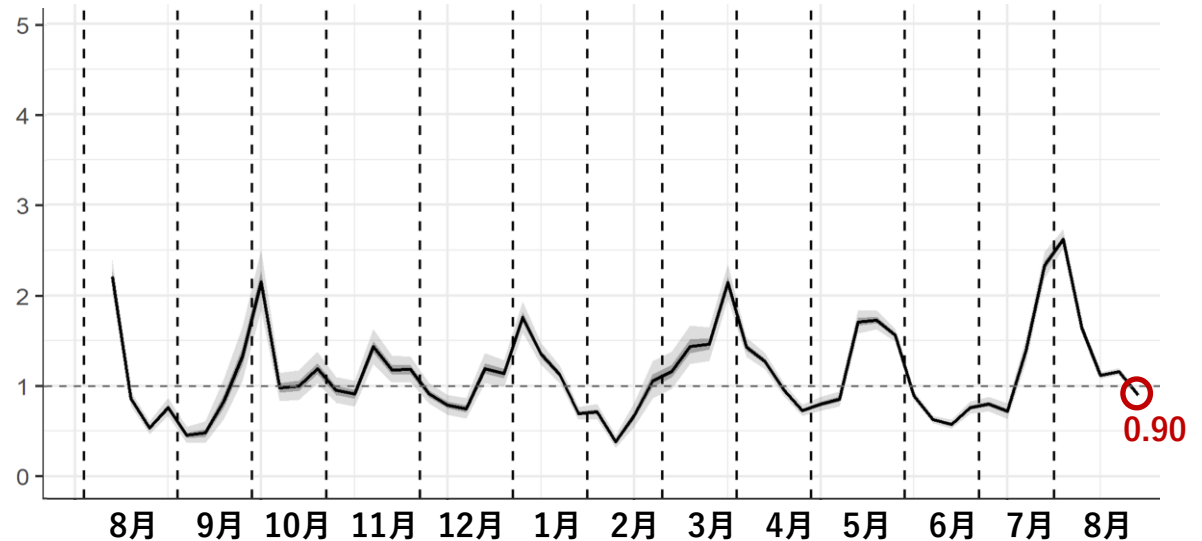
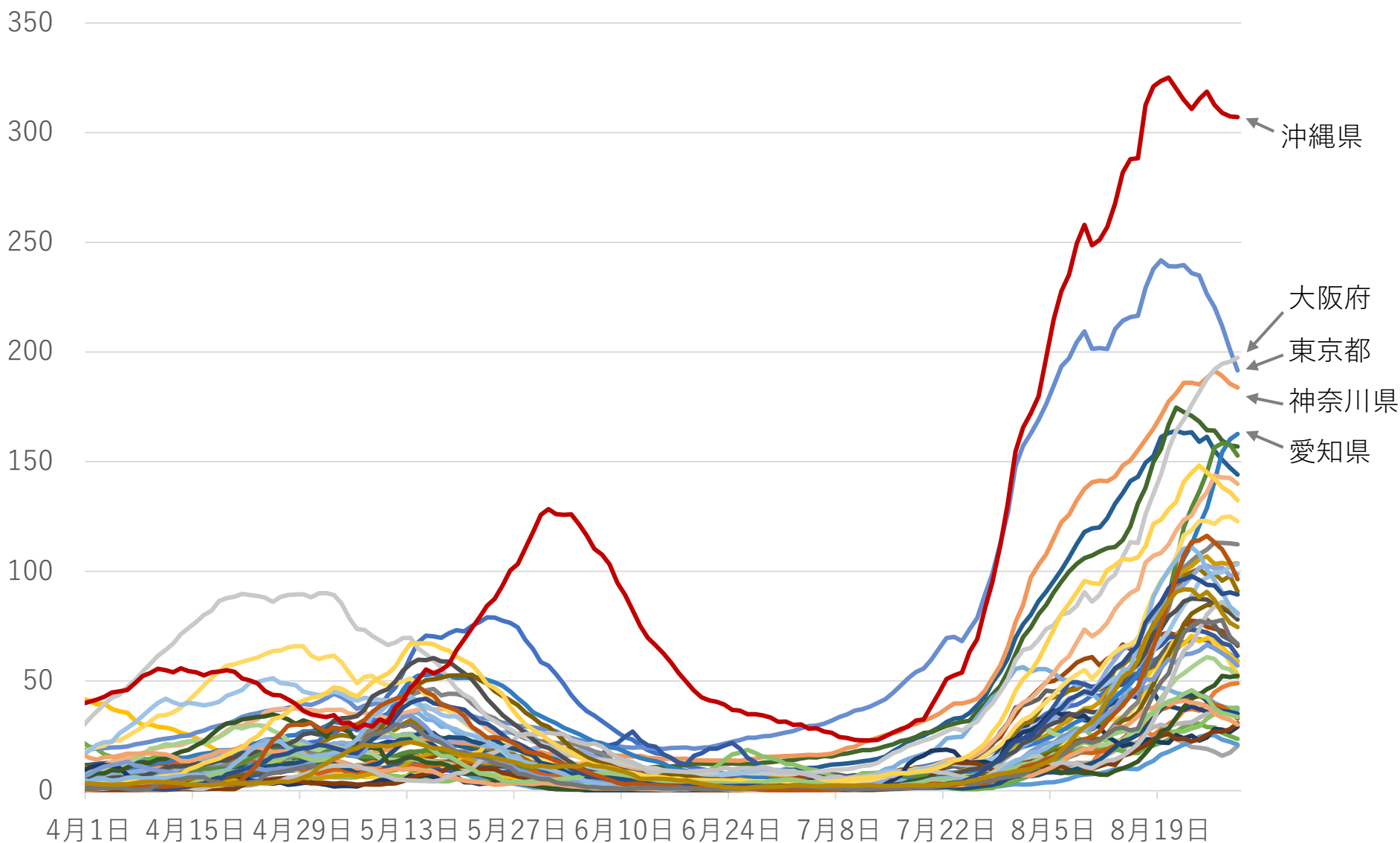


図2 都道府県別にみる新規陽性者数の推移

人口10万人あたり7日間合計



出典：NHK特設サイト「新型コロナウイルス」掲載の都道府県ごとの陽性者数をもとに筆者作図

図3 沖縄県における性年齢階級別症例数（8月23日～29日）

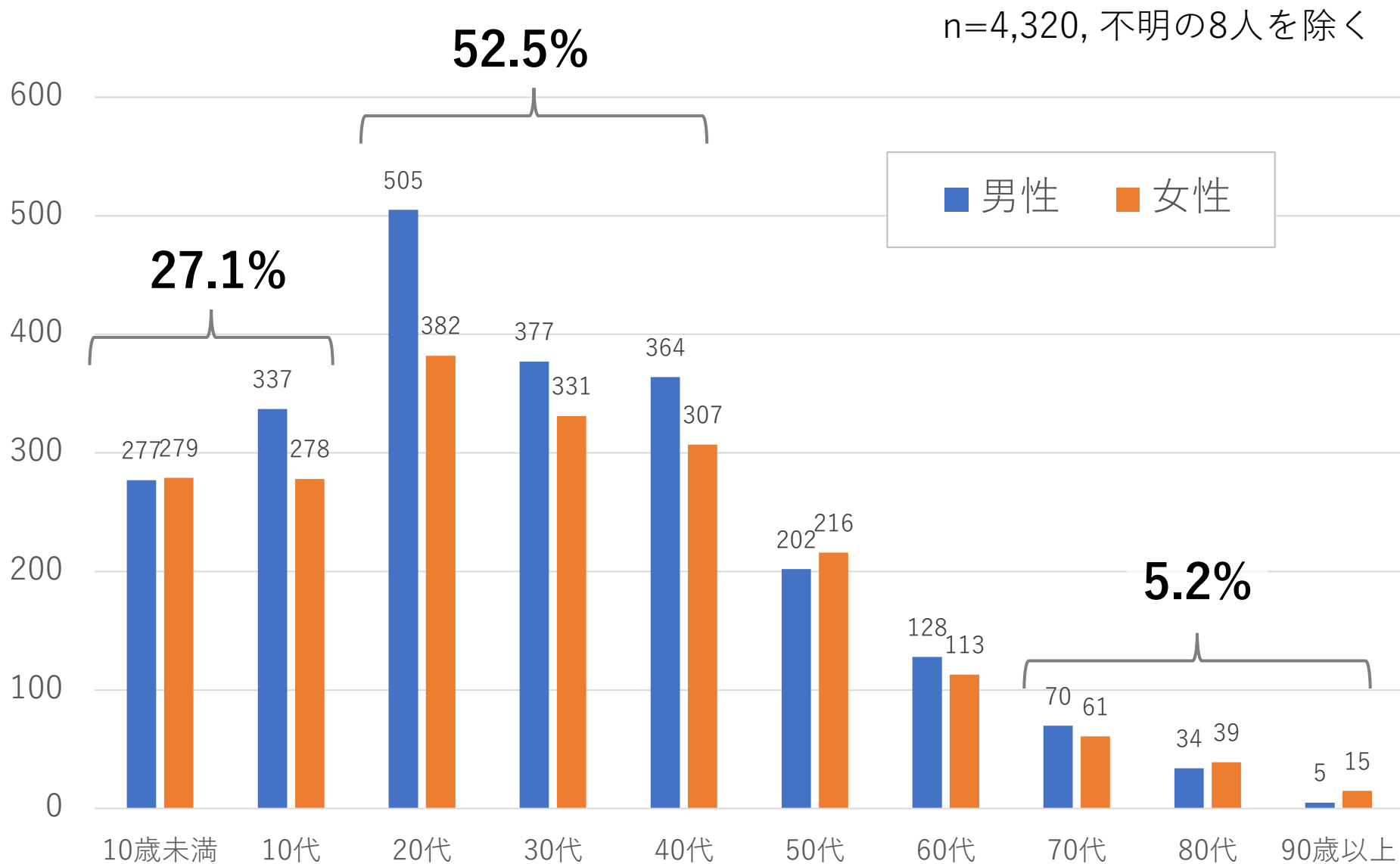


図4 年齢階級別陽性者数の推移（週あたり）

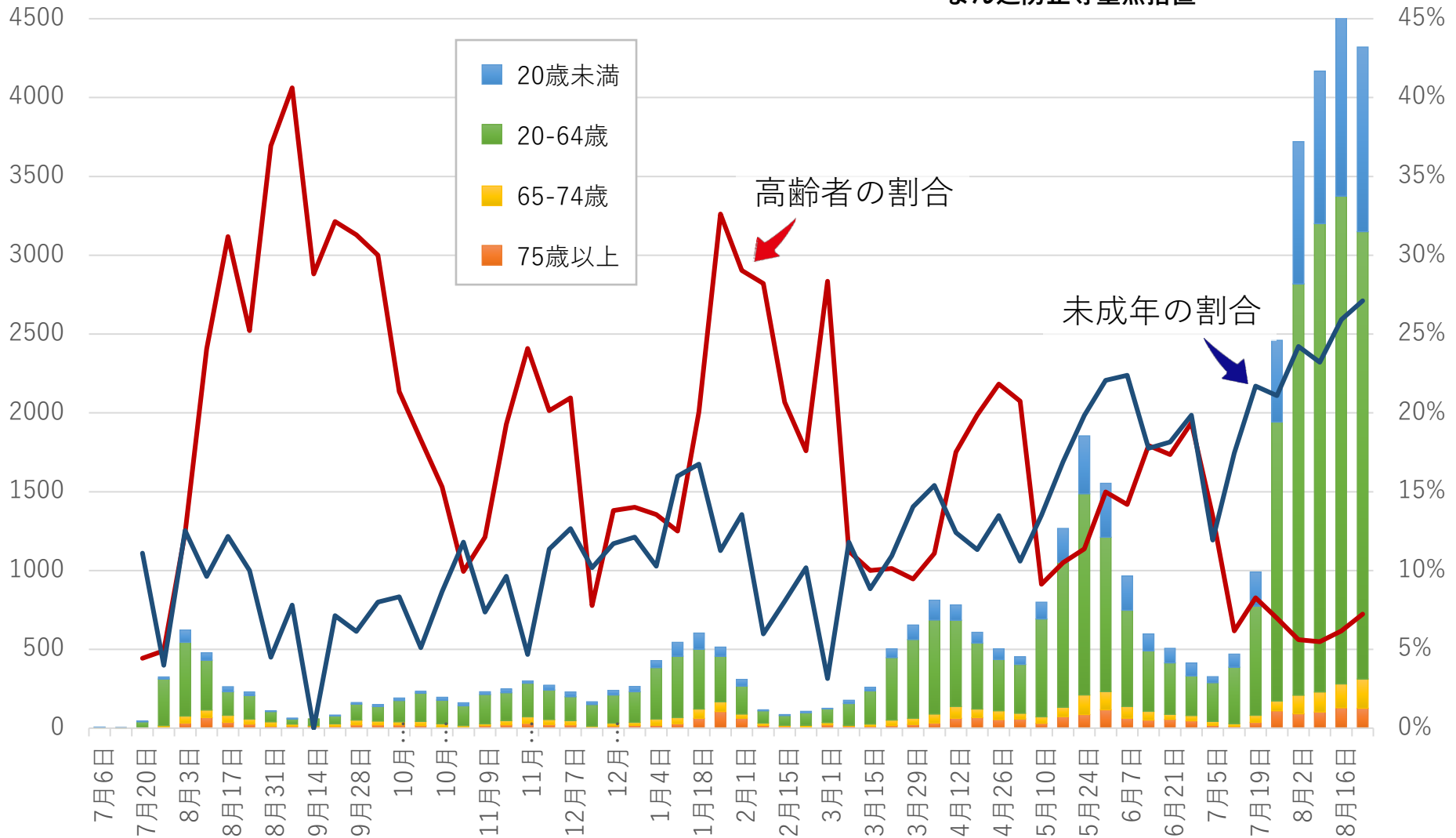
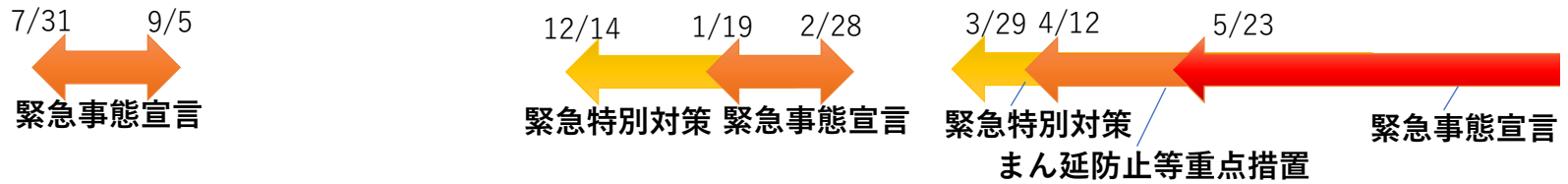


図5 保健所管区別にみる新規陽性者数の推移

人口10万人あたり7日間合計

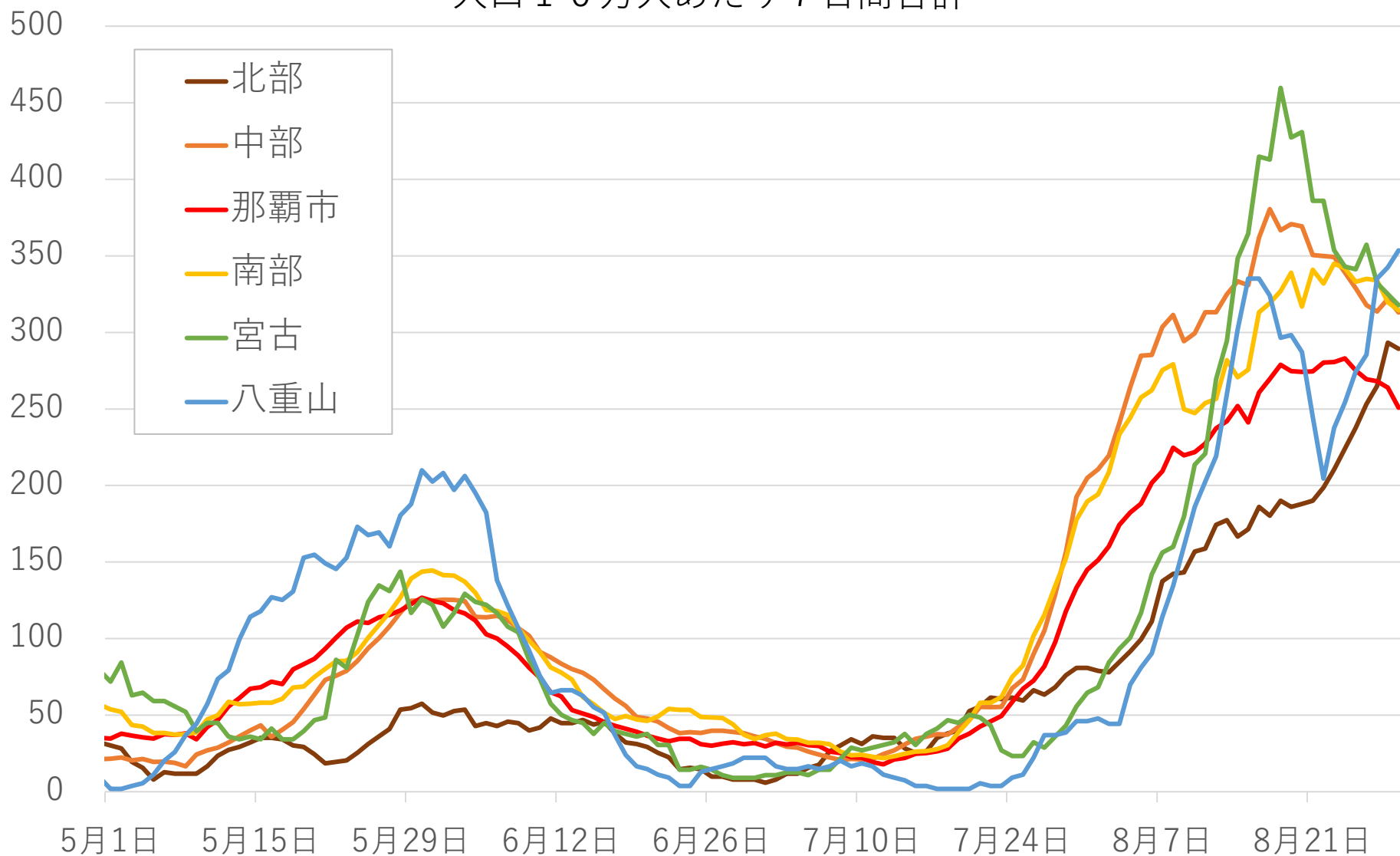


図6 市町村別にみる新規陽性者数（先週の上位10市町村）

人口10万人あたり7日間合計

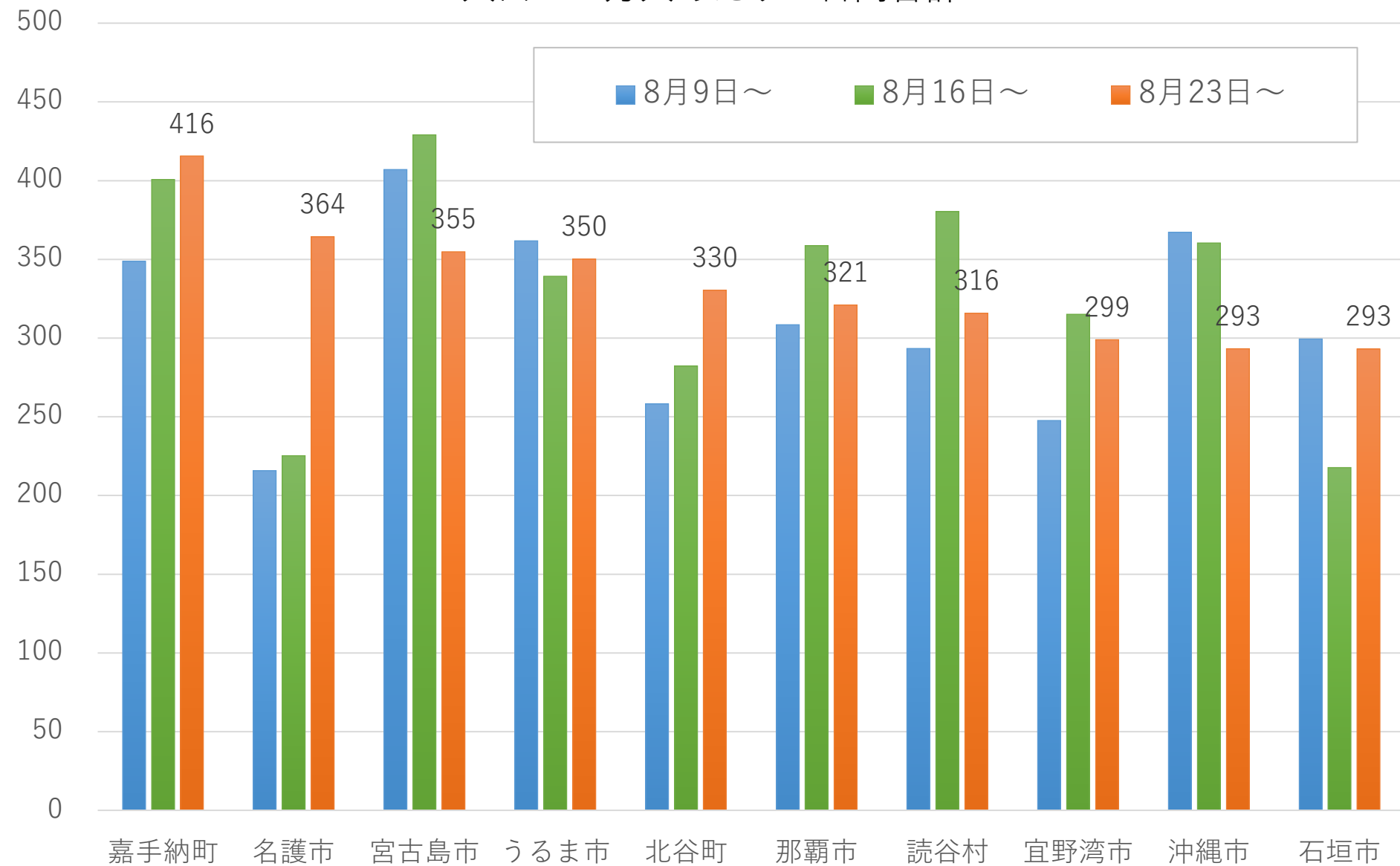


図7 新規陽性者数および重症度別入院患者数

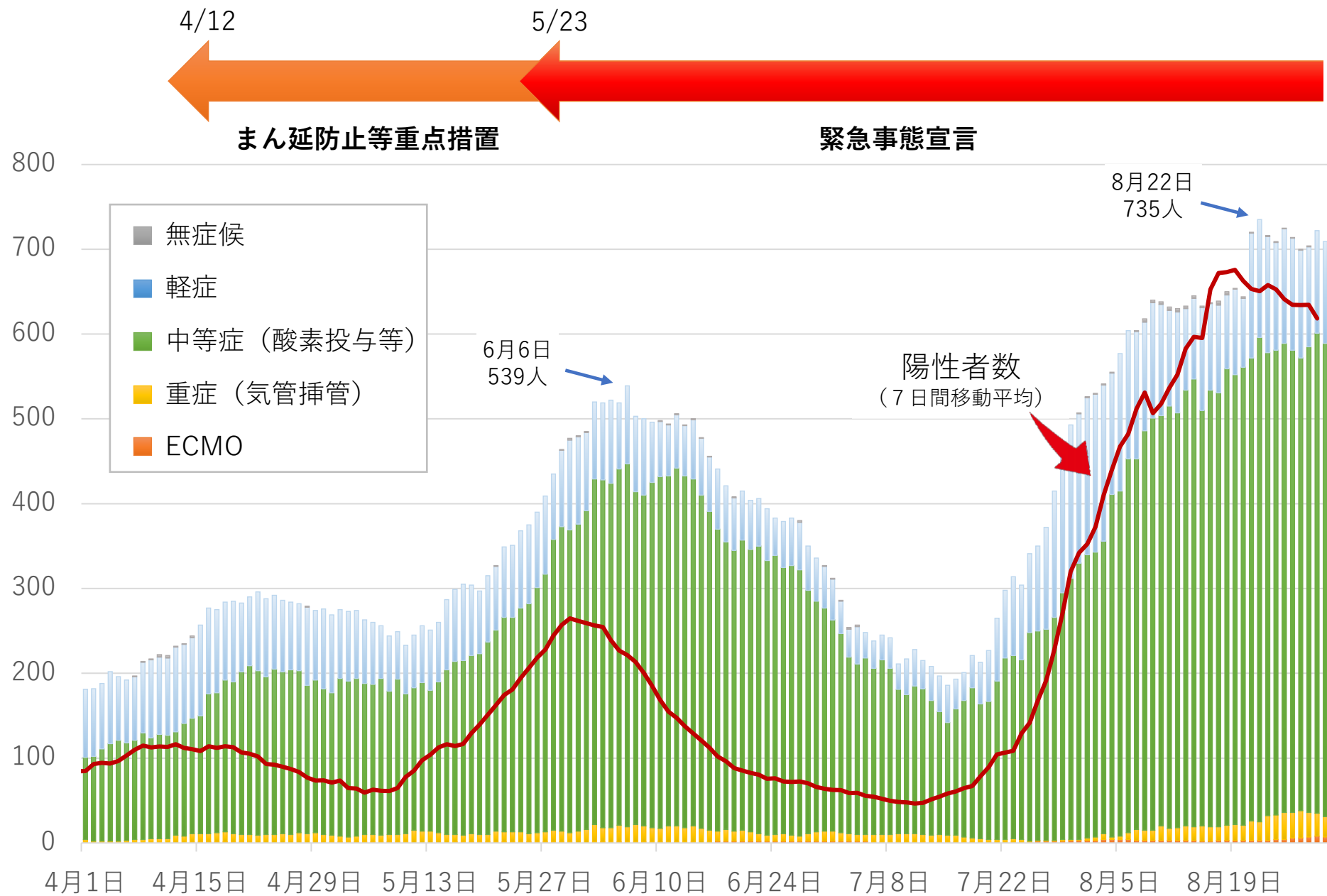
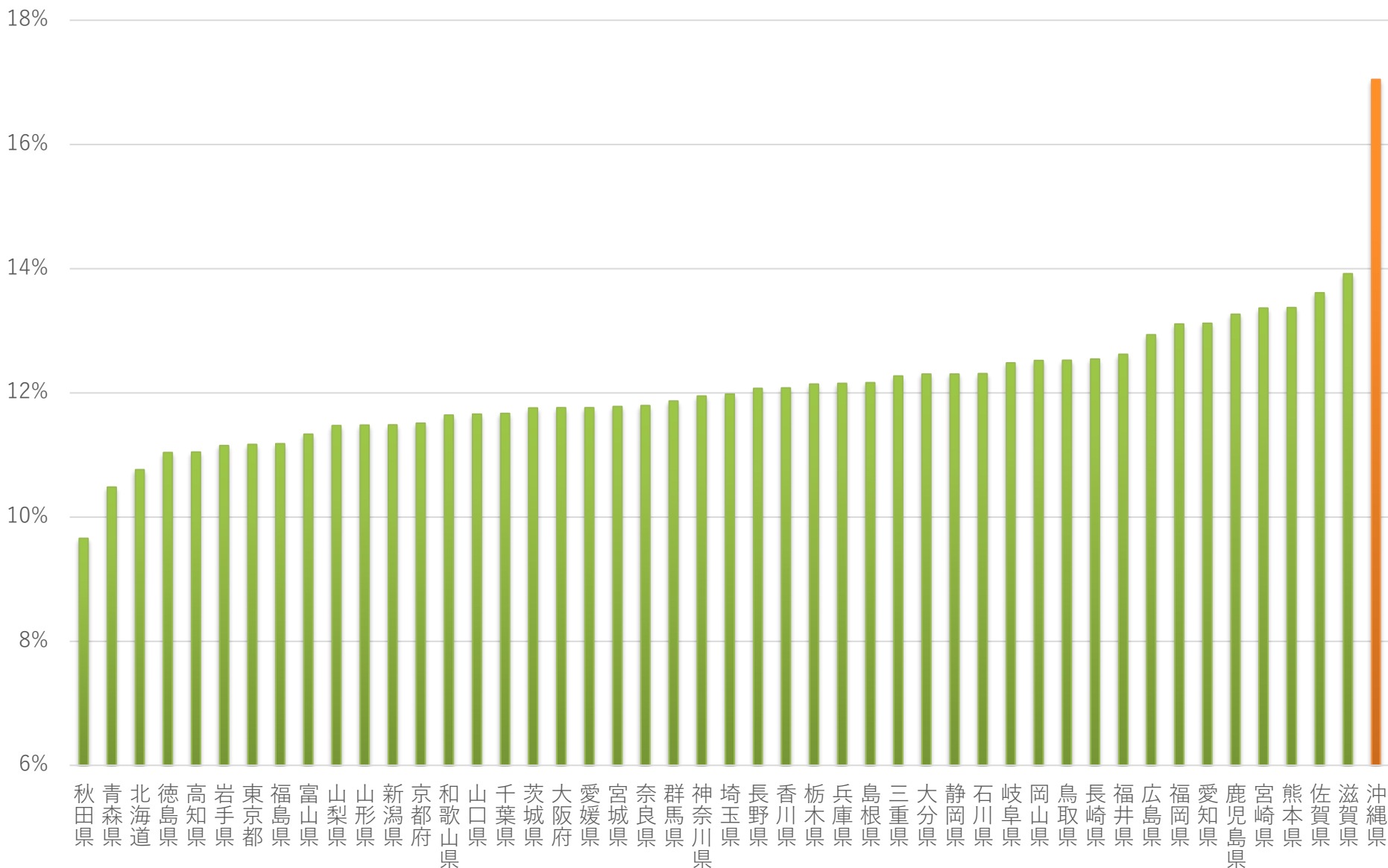


図8 全人口に占める15歳未満人口の割合



※ 国立社会保障・人口問題研究所：将来の地域別男女5歳階級別人口(2020年)をもとに筆者作図

図9 今後1週間（8月30日-9月5日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

	新規陽性者数（確定日）			入院患者数 ※			重症患者数 ※		
実効再生産数	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
北部	149	301	606	84	98	120	2.5	3.1	3.9
中部	796	1,602	3,226	272	350	477	14.3	17.5	22.7
那覇市	535	1,078	2,171	217	268	351	16.6	18.7	22.0
南部	507	1,021	2,056	180	226	303	5.7	7.6	10.8
宮古	89	179	360	35	44	58	1.5	1.8	2.4
八重山	92	186	375	46	59	79	1.5	2.1	3.1
合計	2,169	4,367	8,794	834	1,045	1,388	42	51	65

※ 9月5日時点の見込み数